

自然のことを分かり易く伝える

# インタープリターとインタープリテーション

2021年スキルアップ講座 フォローアップ編

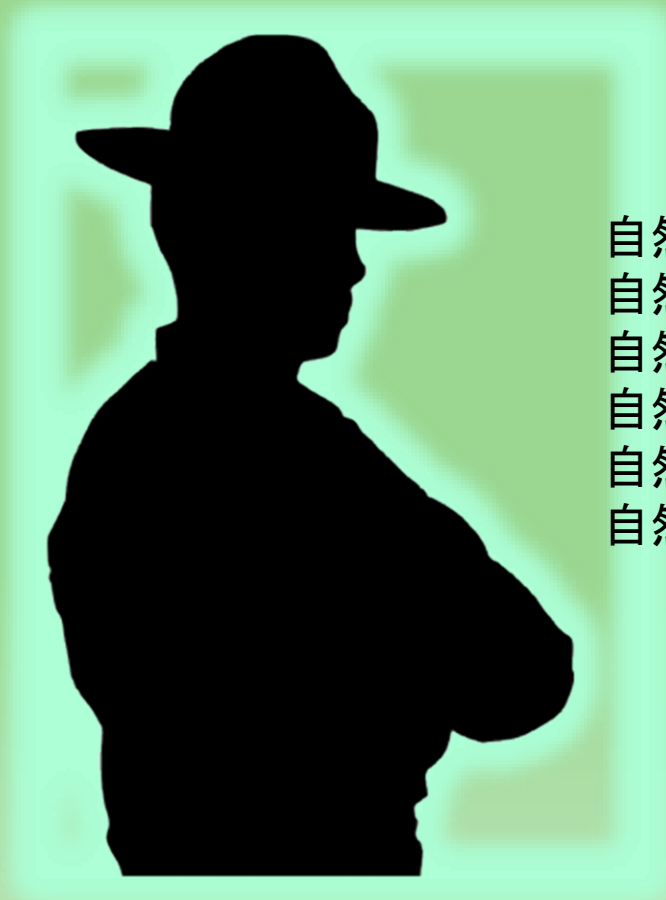
2021/9/5

NPO法人日本パークレンジャー協会



この人は誰(何をやる人)でしょう?

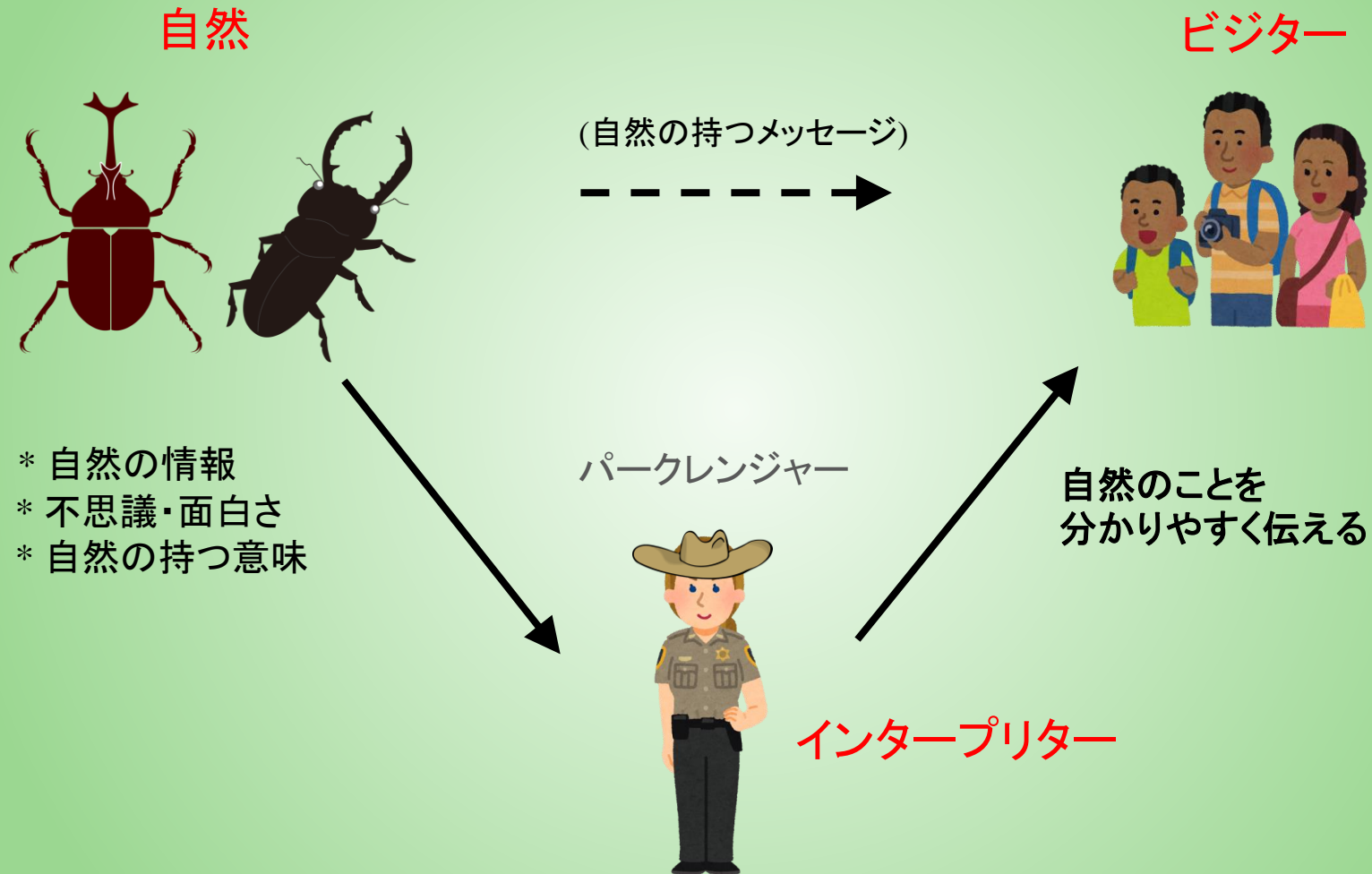
パークレンジャー (自然保護官)



自然公園の施設維持管理  
自然の保全保護・調査  
自然情報の発信  
自然のイベント  
自然の解説(インタープリテーション)  
自然公園内許認可

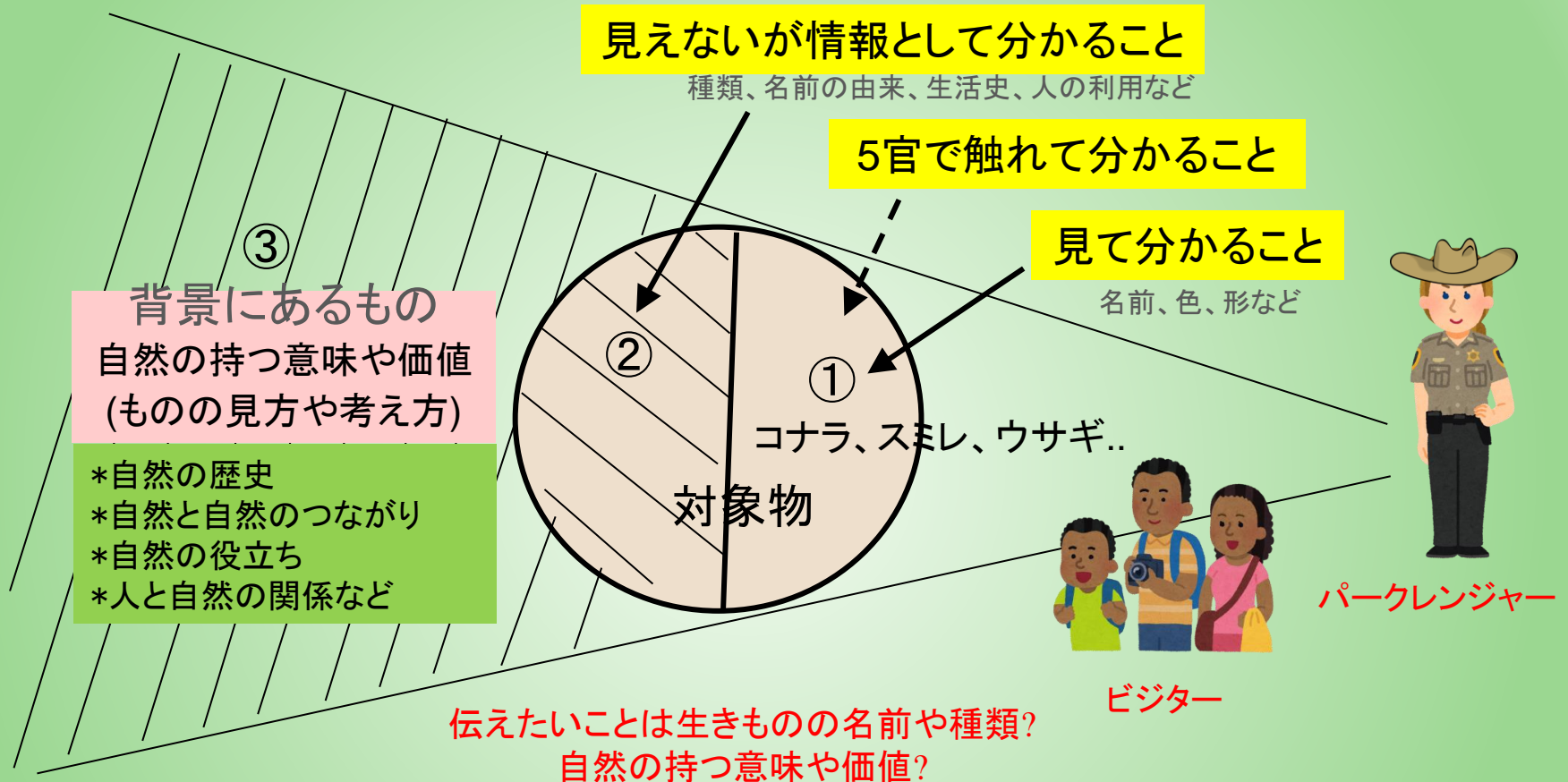
自然ガイド (インタープリター)

# 1. インタープリター と インタープリテーション



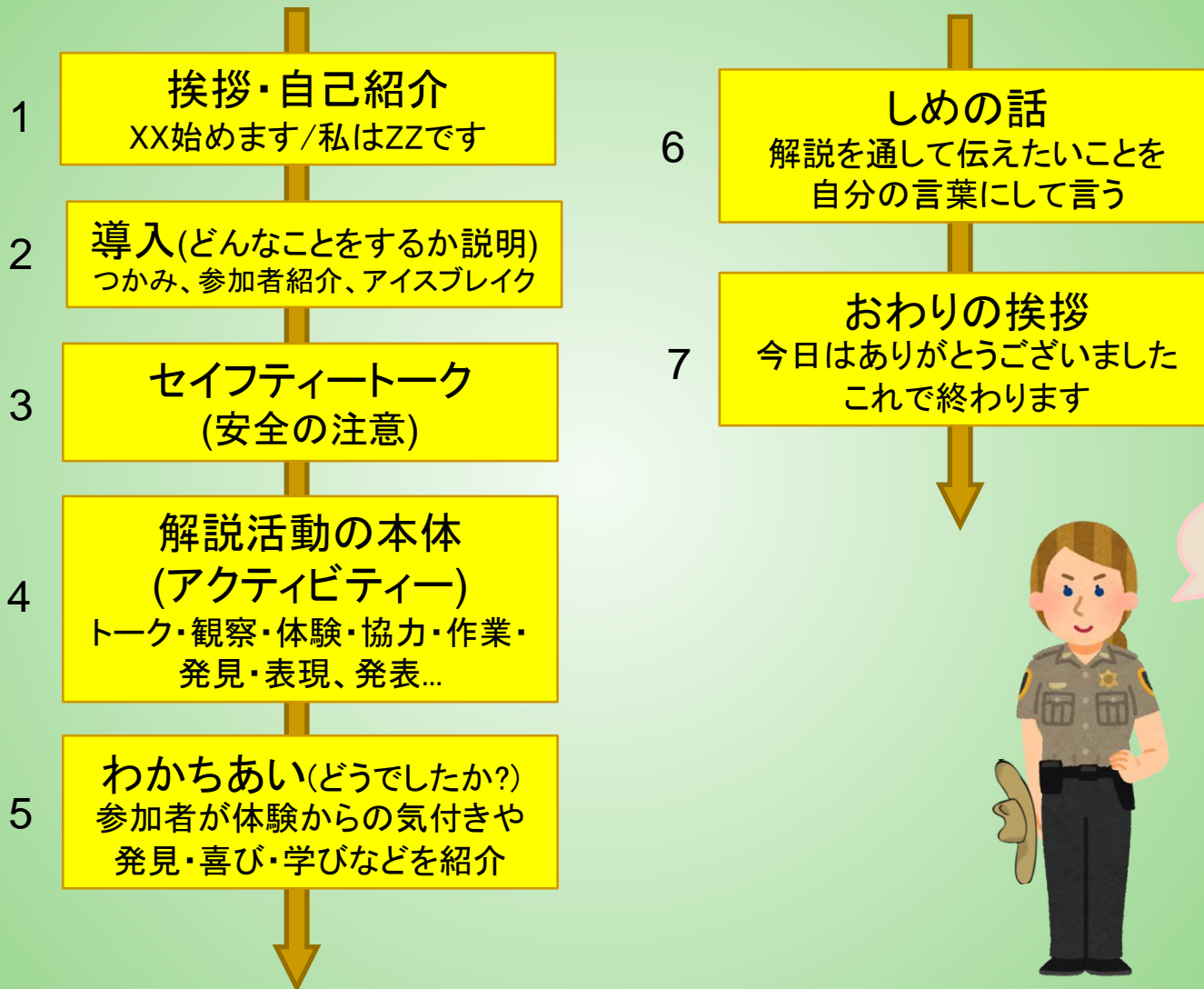
インタープリテーション = 自然のことを分かりやすく伝える → 自然を知ってもらう活動

## 2. どんなことを伝えたら良いのか?



- \*人は生きものの名前や種類などを聞いても記憶に残らない
- \*人は五官で生きものに触れて感じたとき身体で自然を知る
- \*人は外から見えない自然の持つ意味や価値を理解する時初めて自然を自分のこととして考え、守る行動をするようになる

### 3. インタープリテーション(自然解説)の流れ(プログラム)

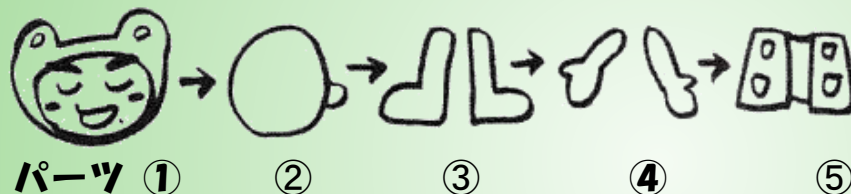


自然のことを分かり易く伝えるための仕掛けがプログラム

## 4. プログラムデザイン

アクティビティやインタープリテーションを何のために、どのように行うのか効果的に話を伝えるための全体のストーリーを作ること

活動要素=アクティビティ



プログラム



図は菊間 章著「もう一度会いたいと思われる人になる」より引用補足

プログラム例:

- \* プログラム -- 「葉っぱじゃんけん」
- \* 概 要 -- 葉っぱには色々な形や色があることや他の生きものと関係していることを解説
- \* アクティビティ -- 色々な葉っぱを集めてその形や色などのお題でじゃんけんをして遊ぶ
- \* コンセプト(伝えたいこと) -- 色々な葉っぱに触れ自然の多様性や自然と自然のつながりを知る



## 5. 色々な伝え方

- 話す: 言葉で説明する
- 見せる: 現物を見る (写真・紙芝居なども)
- 質問する: 問いかけをして考えてもらう(双方向で話をする) / クイズ
- 体験する : 五感で実際に感じる (見る・聞く・匂う・味わう・触る)
- 野外ゲーム: 自然のことをゲームを通して伝える
- 自分で考えて行動してもらう: 参加者主体

大切なこと:

\*子どもには子どもの話し方をする(専門用語は使わない)

\*相手(特に子ども)の発見に共感する “**すごいね! 良く見つけたね!**”

相手に伝わるように話をするには

- ① 何について話をしているのか明確にする
- ② 相手に分かる言葉で話す
- ③ 話の筋が通るように話す

一方的にしゃべるだけ、聞くだけと言うのは結構しんどい

## 6. 伝わるインタープリテーションをするための10箇条

- 案内するのは一人で10人くらいまでにする
- みんなに聞こえるように話す
- 移動中は話をしない(移動とインタープリテーションを分ける)
- 全員が集まってから話す(行き過ぎて戻る)
- 拡声器は使わない(拡声器は人の心にとどかない)
- 子どもにはわかるような言葉で話す(専門用語は使わない)
- 解説は相手の興味や関心に合わせる(人数、年齢、男女比...)
- 話は短くする(あれもこれも話さない)
- 解説活動を通じて伝えたいことを自分の言葉で話す
- 最後に締めめの言葉を使う



## 7. ふり返り

終わったらプログラムをふり返って「良かったと思うところ」、「うまくできなかったと感じるところ」、「その他気づいたこと」を検証して次回につなげる  
皆が同じ視点でふり返りができるようにふり返りシートを用いると良い

- \*ふり返りは反省会ではないので、できなかったことをダメだしする場にしない
- \*言う方も聞く方も素直な気持ちで次回にどう生かすのかをしっかりと共有して短時間で終わるようにする

フィードバックの五箇条:

- ① 先ず良かったところをほめる
- ② 次に気になったところを言う
- ③ 抽象的ではなく具体的な話をする
- ④ 「何々すべきだ」ではなく「私はこう思う」と言う提案をする
- ⑤ 人の話を聞くときは謙虚に聞く